CIVIL JOURNEY 歴史街道を行く

# 柳生街道

## 信仰の道から剣豪の里へ

幕府隠密、柳生一族。
この言葉はどれほどのロマンを
かきたててくれることでしょうか。
抜かざる剣を旨とする
柳生新陰流の開祖、柳生石舟斎。
宗矩、そして十兵衛。
時代劇でも人気の剣豪達のふるさとは、
奈良 春日大社の南、春日山の原生林を
分け入り、石切峠を越え、いくつかの
茶畑や田、集落を過ぎて行く
人里離れた山奥にあります。
春日大社から柳生の里にいたる
柳生街道は、古くから信仰の道であり、
多くの武芸者、剣豪、修験者、
僧侶、忍者たちが往来した歴史の
魅力に満ちあふれた道です。

### 鬱蒼とした原生林の中 石畳と滝と石仏の道、滝坂道

奈良の春日大社から柳生の里にいたる柳生街道は、新薬師寺の東、1998年に世界文化遺産の指定を受けた春日山原生林をたどるところから始まります。841年に山内での狩猟や伐木が禁止され、春日山一帯は実質的に春日大社の社領となりました。スギやヒノキ、サクラをはじめ、人の手にふれさせることのなかった熱帯・暖帯のさまざまな植物が鬱蒼と生い茂る谷間、能登川の渓流に沿った苔むした石畳が美しい道は滝坂道です。これは奈良奉行によってつくられた春日への信仰の道で、渓流はいたるところで小さな滝をつくり、緑濃い樹林の中に点在する石仏たちがひっそりと時を刻んでいます。

**その表情笑うが如く、**
**また泣くが如し**
**会津八一がこう評した夕日観音や朝日観音。**

その名のとおり、山の際から夕日や朝日を受けて神秘的に輝くことからこう呼ばれています。

滝坂道をさらに奥に行くと江戸時代初期の剣客、荒木又右衛門の伝説が残る首切り地蔵があります。この道を歩いて柳生道場へ剣の修行に通っていた又右衛門がこの地蔵で剣の試し切りをして真っ二つにしたということです。

そして、花崗岩を彫り込んだ石仏に残る、線刻の朱色が美しい地獄谷石窟仏（奈良～平安期）、また藤原時代のものといわれるぎょう灰岩を彫り込んだ春日山石窟仏（穴仏）など滝坂道は石仏の宝庫といえます。これらの石仏は大仏殿などの造営に使用された石を切り出したあとに刻まれたもので、柳生街道の生成よりもはるかに昔から存在したものと考えられています。

茶畑

滝坂道

### 武士の飲み代の「かた」が残る峠の茶屋

昔、このあたりの石を切り出していたので、その名が生まれたといわれる石切峠。風情ある峠の茶屋の

峠の茶屋

地獄谷石仏群

縁台に座り、おいしい草餅をいただきます。かつて柳生街道を往来した旅人たちも同じようにこの茶屋で一息ついたのでしょう。店の鴨居には薙刀（なぎなた）や槍などがかけられており、これは昔、武士が飲み代の「かた」に置いていったものとか。付近には四等三角点を擁する芳山（ほやま）石仏もあるほか、誓多林（せたりん）や大慈仙（だいじせん）という名の集落があり、インドの聖跡からつけたといわれています。

峠を越え、のどかな茶畑や田を抜けて、柳生街道随一の名刹、円成寺へ。鑑真和尚とともに来日した虚滝（ころう）和上が開山したといわれ、緑の中に端正な姿を現す楼門（重文）と浄土式と舟遊式を兼ねた庭園が典雅な風格をかもし出しています。藤原時代の中期の作（重文）である本尊阿弥陀如来像（重文）や運慶20歳の頃の作といわれる大日如来像（国宝）など数々の宝物に寺の格式の高さがうかがえます。

円成寺を過ぎると、道はいよいよ柳生の里へと入ってゆきます。

## 新陰流の奥義を究めた柳生三代

時代劇や小説であまりにも有名な柳生一族とはいったい、どういうものなのでしょうか。柳生氏のプロフィールについて簡単にみてみますと、柳生の里は江戸時代初期、柳生宗矩（むねのり）の領地となったことに始まります。その父、柳生石舟斎宗厳（せきしゅうさいむねよし）は剣術の一派、柳生新陰流を創始。これはいわゆる「真剣白刃取り」として有名で、無刀取りといわれる抜かざる剣を追求するものです。この剣法を見た家康がいたく感激し、直ちに石舟斎に入門したといわれています。浪々の身だった親子はこの時より徳川に仕え、宗矩は2代将軍秀忠の兵法指南役となり、その後、とんとん拍子に出世。ついに柳生藩1万2500石を与えられるのです。

鬱蒼たる森の中に不思議な巨岩が鎮座する天乃岩立神社に、石舟斎の剣豪ぶりを示す伝説の一刀石が残っています。石舟斎がこの地で修行中のこと、一匹の天狗が石舟斎をめがけて斬りかかってきました。石舟斎は一刀のもとに天狗を切り捨てますが、夜が明けてみると天狗の姿はそこにはなく、真っ二つに割れた大きな岩があったということです。

宗矩のエピソードを示すものとしては「お藤井戸」があります。殿様宗矩が馬上から、井戸で洗濯している村娘、お藤に「波はいくつあるか」とたずねたところ、「7・3（なみ）は21です」と答えが返ってきました。この才気ある頓智問答にいたく感心し、お藤を側室に迎えたというのです。ほほえましいロマンチックな逸話です。

また、柳生のヒーローとして後世に人気の高い柳生十兵衛が植えたといわれるのは柳生のシンボルともなっている十兵衛杉。宗矩の息子にして剣の達人、十兵衛は3代将軍家光の密命を受け諸国を巡歴したといわれますが、旅の出立の際、先祖の墓に参り、この杉を植えたといわれています。この杉は約300年後の1972年、落雷により枯れますが、現在は2代目十兵杉がかの剣客の魂を今に伝えています。また十兵衛が一万人もの弟子を指導したという正木坂道場は柳生氏の菩提寺、芳徳寺参道に今もその名を残し、若き剣士たちの道場として日々精進の舞台となっています。

円成寺 多宝塔

一刀石

### 山岡荘八と旧柳生藩家老屋敷

柳生一族が一躍全国的にブームとなったのは、映画『柳生一族の陰謀』やテレビの大河ドラマの影響が大きく、特にその火付け役となったのは山岡荘八の小説『春の坂道』といわれています。豪壮な石垣が見事な旧柳生藩家老屋敷は家老、小山田主鈴（しゅれい）の屋敷跡ですが、一時、山岡荘八が所有し、『春の坂道』の構想をここで練ったとされています。現在は奈良市に寄贈され柳生に関する資料館となっています。

ところで、小山田主鈴は、大阪堂島の米相場で巨利を得て藩の財政を救ったといいます。また、一流の茶人でもあったとか。才知に長けた粋人であったのでしょうか。

芳徳寺

## 柳生一族が眠る菩提寺、芳徳寺

芳徳寺は宗矩が創建した寺で、親交のあった沢庵和尚が開山しました。本堂には宗矩、沢庵和尚らの木像が祀られ、また十兵衛の秘伝書『月の掟』などが展示されています。寺の裏には一族の剣豪たちの墓所があります。

境内からは柳生の里が一望できます。山深い盆地にひっそりとたたずむ柳生の里は、剣豪たちの誇り高い夢がうち建てた小さな国のようにも見えます。

●

春には桜、初夏の花しょうぶ、秋にはコスモス。そして清流のせせらぎと美しい自然が満喫できる柳生街道は、珠玉のハイキングコースとして人気があり、週末ともなれば多くの人々がこの歴史の道を辿っています。